



京都の『歴史・文化・自然』の
玄関口となる広場で、SDGsの
目標に貢献するまちづくりを



水と緑のエリアマネジメント

京都駅北『地域雨庭』イメージプラン



現状の蓄雨高の評価

現状蓄雨高
約10 mm

【都市再生緊急整備エリア（京都駅周辺地域）】



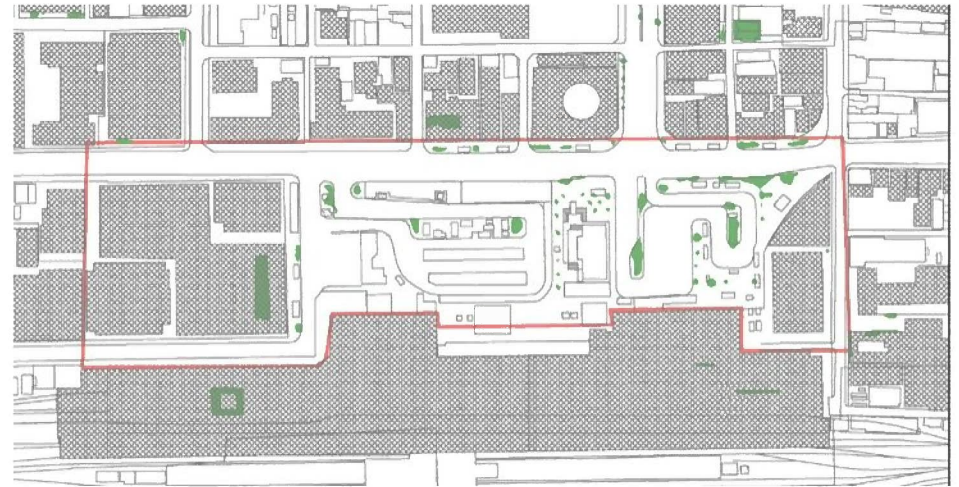
土地利用の形態	蓄雨係数	面積 (m2)	面積割合	蓄雨高 (mm)
屋根とアスファルト	0.05	492062	0.90	4.50
平坦な屋上緑化と緑地(締め固め)	0.5	55100	0.10	5.04

9.53

平成14年指定の都市再生緊急整備エリア（京都駅周辺地域）のうち、上図で示す京都駅北側においては、緑地が東部の公園や寺社仏閣の敷地に偏っており、駅前周辺に着目する

現状蓄雨高
約6 mm

【京都駅北周辺地域】



土地利用の形態	蓄雨係数	面積 (m2)	面積割合	蓄雨高 (mm)
屋根とアスファルト	0.05	55774	0.97	4.86
平坦な屋上緑化と緑地(締め固め)	0.5	1630	0.03	1.42

6.28

と、蓄雨高は10 mmに満たないことが分かった。次に、京都の玄関口である駅北周辺地区にしばって、「地域雨庭」の具体的なイメージを検討し、シミュレーションを行うこととした。

※ 蓄雨高

日本建築学会の「雨水活用技術基準（AIJES-W003-2016）」における主要指標：一定地域における防災・治水・利水・環境の4種の蓄雨量 (mm)

提 案

I . 全 体 コ ン セ プ ト

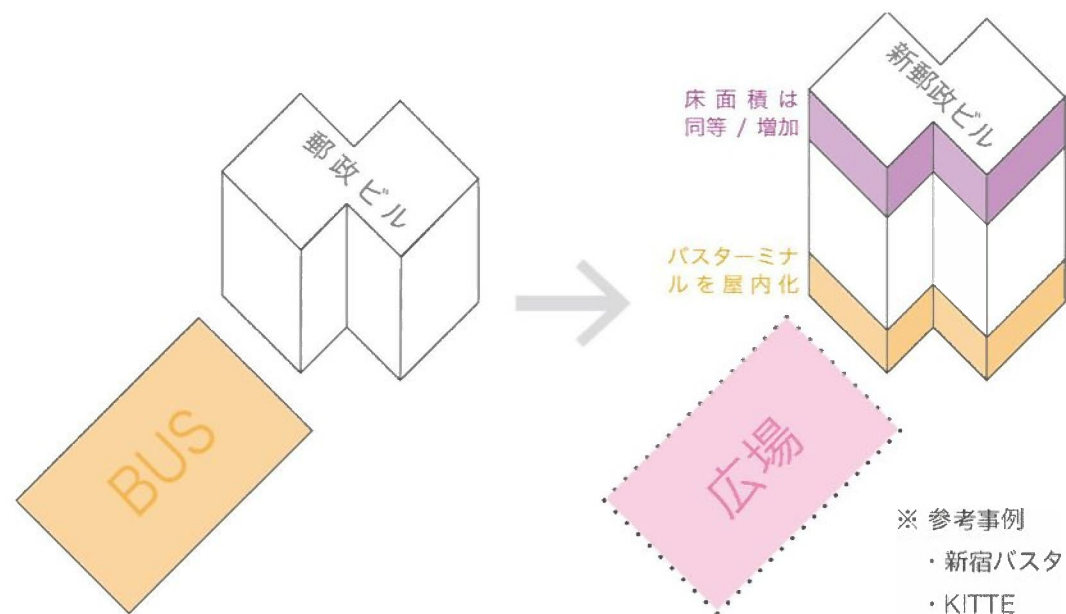
- ① 温暖化適応（豪雨・ヒートアイランド）
- ② 歴史・文化をふまえた水とみどり
- ③ SDGs の複数目標貢献（3. 4. 11. 13. 15）で「経済」「社会」「環境」課題の同時解決
- ④ 地域をベースに国・市・市民・事業者・大学等の協働

II . 4 つのエリアの方向性



II - (i) . 総合設計制度活用のイメージ

バスターミナルの屋内化と広場空間の創出



バスプールの面積を維持。ターミナルに必要な2階分(約6m)もしくは、それ以上の高さを増築(現郵政ビル:6階立て=約20m)バスターミナルを屋内化することで、人が回遊・滞留す

る導線を創出。タクシープールは現状を維持。京の自然と文化を発信・交流する場にも活用できる。

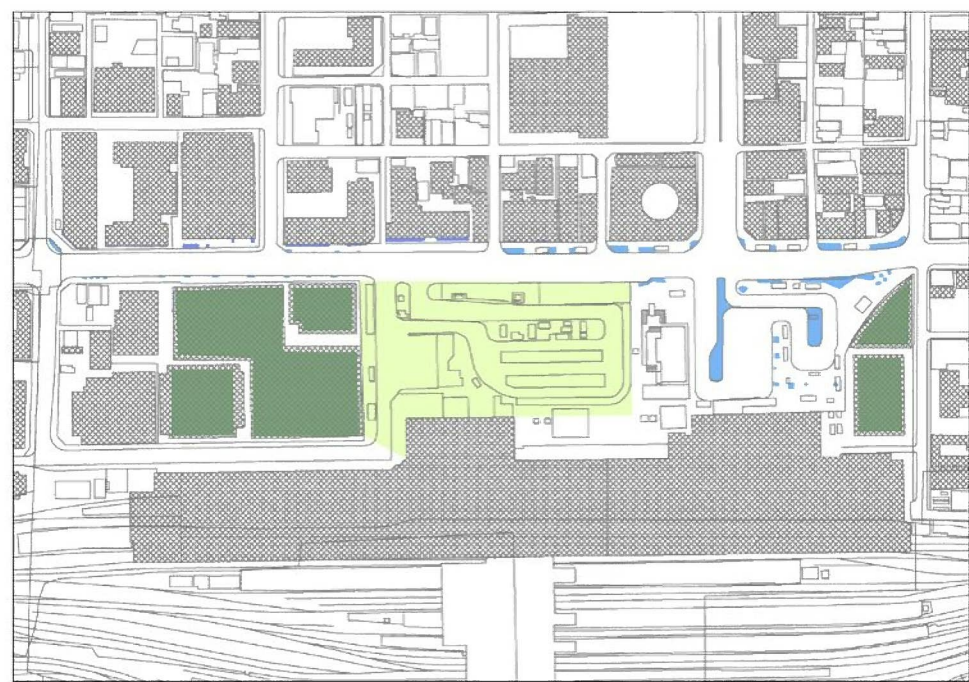
にぎわいを生む新たな導線のイメージ



II - (ii) . 50 mm 対応に向けてのシミュレーション

将来蓄雨高
約 50 mm
(オフセット有り)

将来蓄雨高
約 40 mm
(オフセット無し)



京都駅ビルで独自に進む 50 mm 対応化と合わせて、駅北周辺エリアにおいても、50 mm 対応を目標とし左のように下記蓄雨性能で実装した場合のシミュレーションを行った。

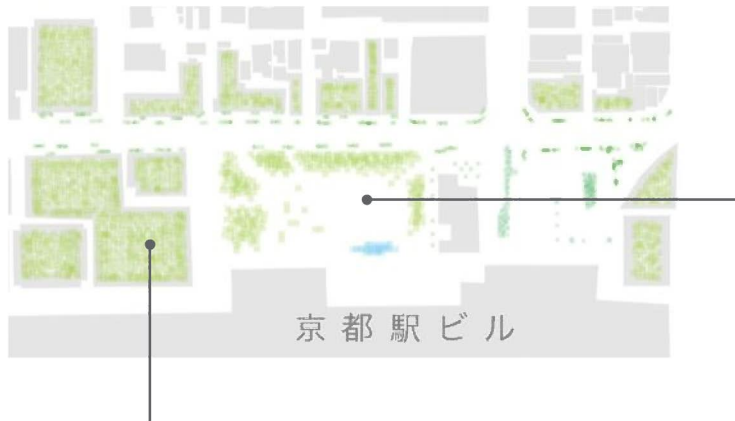
- ① 道路の植栽帯などを 200m 対応の雨庭化
 - ② 周辺ビルの屋上を 100 mm 対応化
 - ③ 駅前広場を 50 mm 対応
- + 不足分 50 mm を芸大エリアへオフセット

土地利用の形態	蓄雨係数	面積 (m2)	面積割合	蓄雨高 (mm)
屋根とアスファルト	0.05	31396	0.55	2.73
雨庭 (道路植樹帯改造)	2	1338	0.02	4.66
雨庭 (Detention 浸透なし型)	2	310	0.01	1.08
Green&Blue Roof	1	10214	0.18	17.79
駅前広場	0.5	14146	0.25	12.32

38.59

- 雨庭 (道路植樹帯改造)
- Green & Blue Roof
- 雨庭 (Detention 浸透無し型)
- 駅前広場

Ⅲ．駅北広場及び周辺のイメージ



新郵政ビル (KITTE KYOTO(仮))

- キーワード** ・親雨水建築化により蓄雨高 100 mm
- 主要なプラン** ・壁面緑化による雨水活用と広場との一体化（緑視率向上）
- ・ニューヨーク市の Brooklyn Grange 等の事例を参考に、「京野菜」「果樹」を育てる屋上菜園（エディブルランドスケープ）と伝統園芸などの文化を継承するコミュニティガーデンを導入。賑わいと生物多様性保全を両立。



駅北広場

- キーワード** ・三山と基盤の目をモチーフとした広場
- 主要なプラン** ・京の文化・里山の生物多様性を感じられる場
- ・『緑の雨水貯水槽』：広場として円形劇場の役割も果たす「植栽帯兼休憩スペース」は、雨水の貯水槽としても機能し。平常時の灌水・打ち水、非常時の防災・利水に役立つ

【現状】



【広場化】



本願寺水道とも繋がる水盤

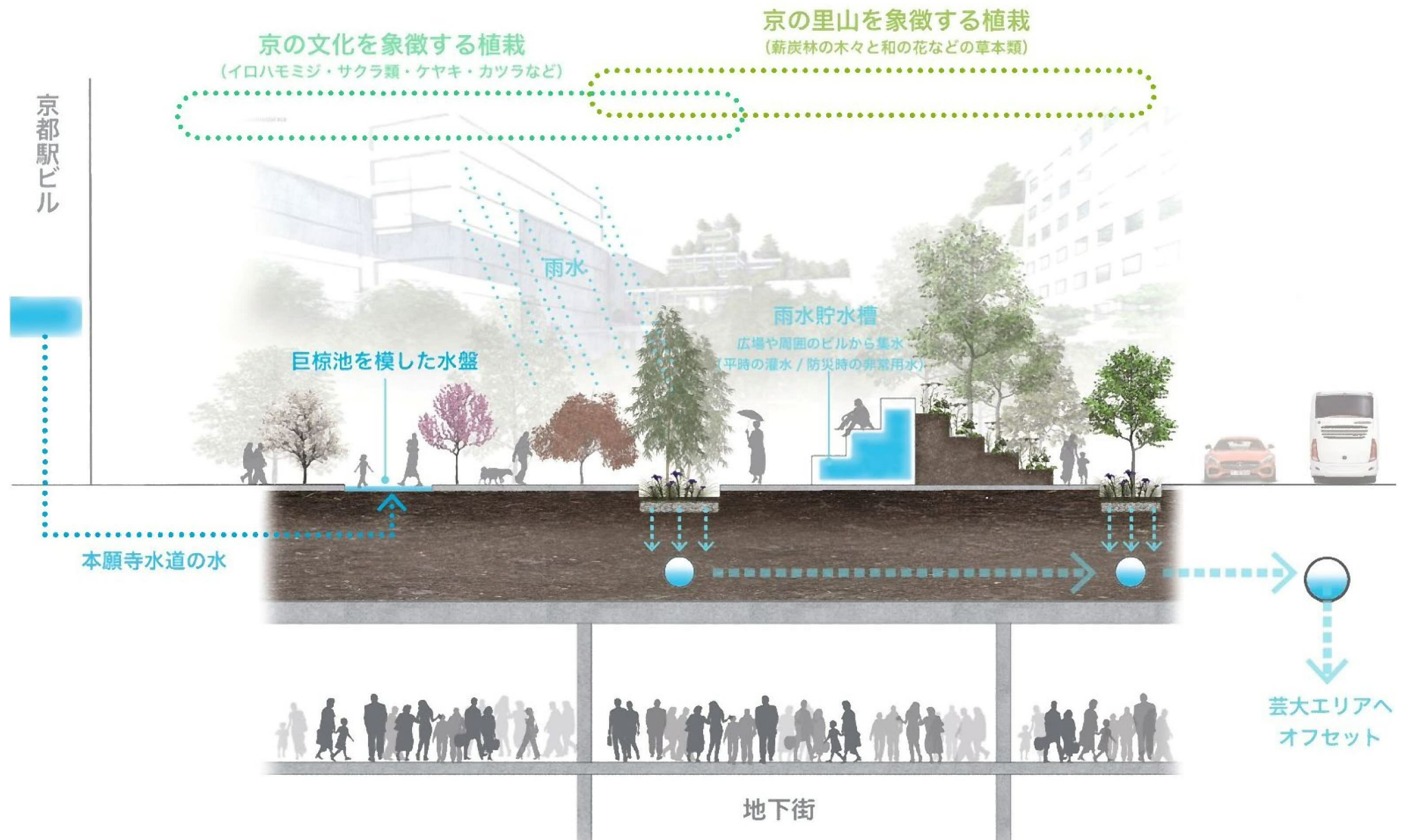


※ 本願寺水道
明治時代に琵琶湖疎水を蹴上から取り込み、東本願寺まで引かれた防火用水。地形を巧みに利用し、文化財的価値もあり、京都駅舎の火災(1950)の消火にも用いられた。

緑化が難しい場合は、貯留機能のみを付加するブルーフ化

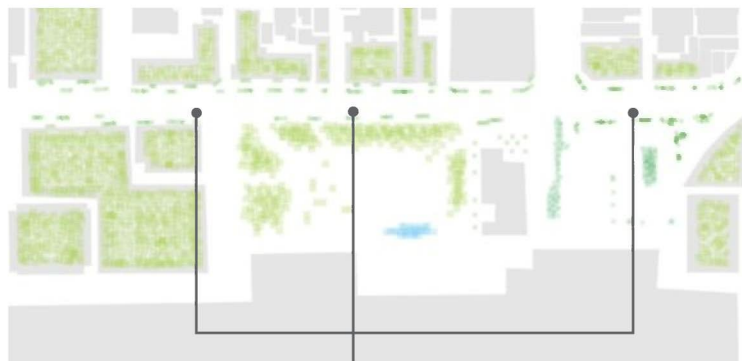
Ⅳ．駅北広場：機能イメージ図

芸大エリアとの連携により不足分の蓄雨高をオフセットし 50 mm 対応の広場に



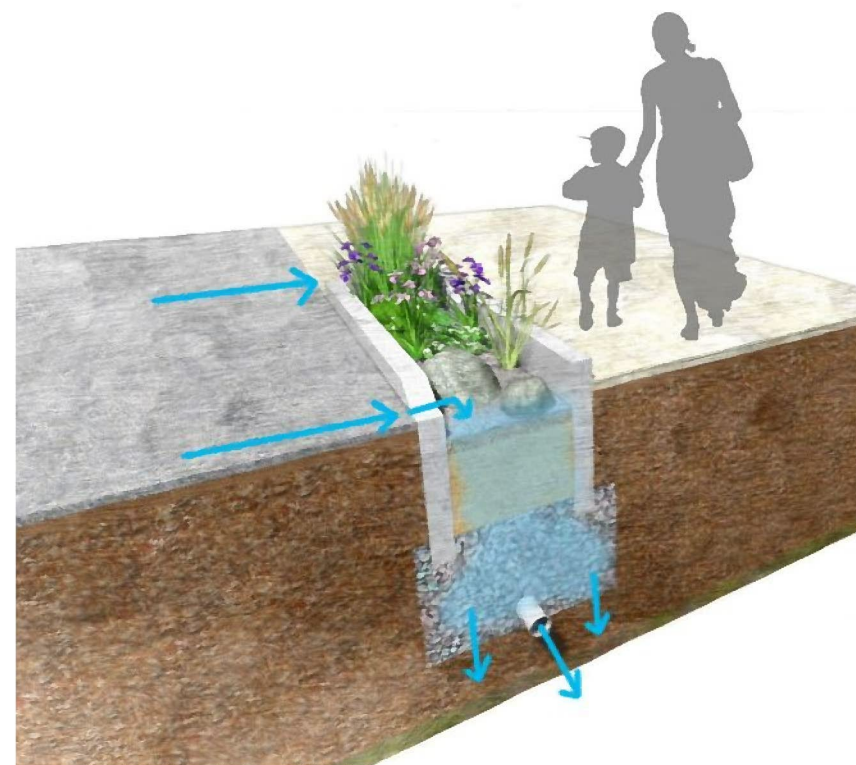
IV - (i) . ディテールの例

文化を基軸とした気候変動への適応：『塩小路緑水歩廊』雨庭要素(例)イメージ図1



街路型雨庭（既存植栽帯の活用）

駅ビルの「ビル型雨庭」緑水歩廊との繋がりを意識した雨庭をクラスター状に整備する。
「枯山水型」「和の花型」など、多様なタイプの雨庭を導入。京の自然と文化を感じられる道によって、駅北広場から芸大エリアまでをつなぐ。



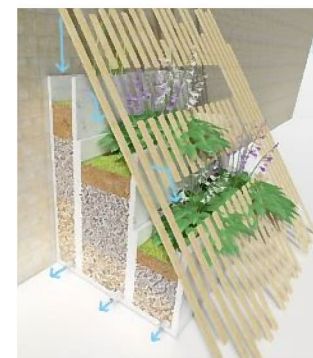
IV - (ii) . ディテールの例

文化を基軸とした気候変動への適応：『塩小路緑水歩廊』雨庭要素(例)イメージ図2



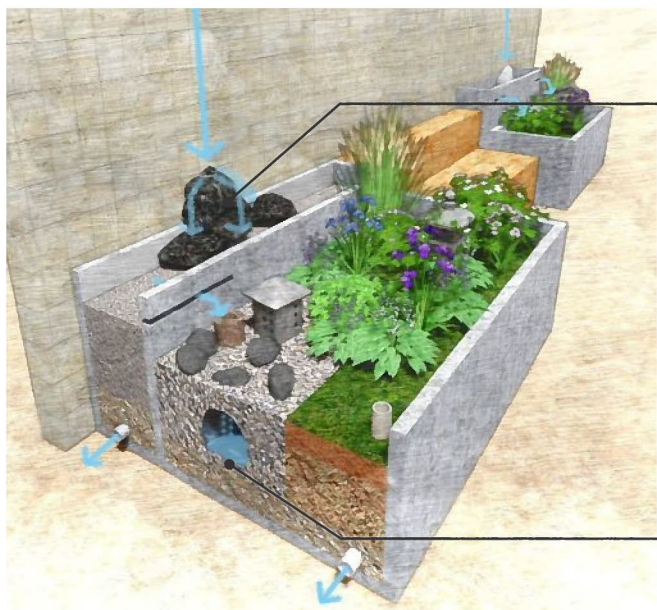
【花やらい型(和風/モダン風)】

京都市都市緑化協会開発の「花やらい」の雨庭版



建築物隣接型雨庭 (Stormwater Planter)

建築物に隣接した植栽帯や花壇を活用する。建築基盤への影響を考慮し、地下浸透は図らず、貯留・濾過・流出ピークの遅延効果を狙う（海外では Stormwater Planter として知られる）。京の多様な自然と文化を発信する様々なタイプをクラスター状に整備する。



【庭園縮景型】



鯉 魚 石



水 琴 窟

【壁面緑化一体型】



【三段の滝型】

無鄰菴や醍醐寺三宝院のダイナミックな滝を彷彿

